

# 平成 28 年第 412 回信濃町議会定例会 12 月会議 会議録(3 日目)

(平成 28 年 12 月 8 日 午後 3 時 10 分)

●議長 (小林幸雄) それでは会議を再開いたします。

通告の 10 石川広之議員。

1 町の観光財産はどのようなものですか。

議席番号 1 番・石川広之議員。

◆ 1 番 (石川広之) 議席番号 1 番・石川広之です。今年 1 年どうでしたか。少雪で始まった今年の冬でした。片照り、片降りの 4 月以降は大変な 1 年でした。9 月からは雨天が多く、秋の野菜作り、また収穫作業は大変な思いをしました。稲作は天候が良くない割には作況が良かったのではないのでしょうか。また、蕎麦はここ数年の不作に、今年もまた同じように悩むばかりです。雨天ではあったが暖かかったのか、9 月上旬に刈り取った稲の株から伸びたヒコバエが、10 月に入り 30 センチ余りになり、成長し、穂が出て、籾が 5、6 粒つきました。こんなことは平成 6 年、信濃町が水稻反収で日本一になった時にあったように記憶しております。

さて信濃町は、大変多くの観光施設、観光地区があり、観光財産として活用されています。田んぼの中に立ち周りを見渡すと、黒姫山、妙高山、戸隠山、飯綱山、斑尾山と、北信五岳の山々が、また遠くには志賀の山並みが一望できます。また野尻湖の湖面、周遊できる道路、見渡せる景色、湖畔近くにある里山、川、新たになった妙高戸隠連山国立公園になりました。町での観光財産とはどのように考えていますか。町長、お願いいたします。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 石川議員さんにお答えをさせていただきます。今、信濃町の自然環境も含めて、素晴らしい信濃町のあらゆるところについて、石川議員さんからもお話しいただいたところでございます。冒頭、私も、まさにそういうことだなというふうに思っています。お答えの前にちょっと付け加えさせていただきますが、そういう面では、この信濃町の素晴らしい環境、先般も実は公民館関係の高齢者学級があったわけでございます。その中でも、そういった、今、石川議員さんが言われたような部分、そしてまたまさにこの本物が勢揃いした信濃町なのだと。野尻湖も本物、今おっしゃられた山々も本物、そして文化的な一茶も本物、全て本物だと。そこで信濃町に住んでいる人の良さと言いますか、人間性も本物だということをつけ加えさせていただいて、話をさせていただきました。

私どもはやっぱり、この本物をまず、本当に本物の中に生かさせていただいているという思いは、やっぱり改めてそれぞれ一町民として、私自身もそうですが、感じる必要があるのではないかな。これから雪がいっぱい降るということで、そういう面では多少

労力がかかって大変だなという部分もあるわけではありますが、それがあからこそ、春が、素晴らしい春を迎えられるし、今、シーズン中のことも言われましたが、春夏秋冬それぞれ素晴らしい環境の中で生活できる、このことも、改めて町民自らが感じ取ってほしいな、お互いに感じ取る必要があるのではないかと、ということも言いながら、まさにそこに住んでいる皆さんが、話題が変わるかもしれませんが、今、町が進めている地方創生のそういった考えのことが、地方創生の根幹に関わってくる問題だと。是非そういったことで、信濃町の情報というものを、住んでいる皆さん自らが発信をしていただきたいのだというお願いも含めてのお話をさせていただきました。

今、町の観光はどうなのだとということで、観光施設の関係でございますが、それぞれ町が管理しているという意味においては、博物館法に基づいて設置をしたナウマンゾウ博物館、そしてまた博物館の相当施設といえますか、としての一茶記念館、また博物館の類似施設としての童話館、これらそれぞれ素晴らしい地元、古代の遺産といえますか、そういったことも含めて、人間の素晴らしい小林一茶というようなことも含めて、まさにこれが本物の文化としてあるということで、このことを今後もまた、より、どういふふうに進展的に PR し、おっしゃるような観光的にもどう結びつけていかれるか、ということが課題にもなってくるのかなというふうに思っています。

●議長（小林幸雄） 石川議員。

◆1 番（石川広之） ただいま、町長のお答えの中に、それぞれ、町にも抱えている、管理をしている施設があります、という中に、一茶記念館あるいはナウマンゾウ博物館、童話館と答えられました。それぞれ、私も議員になって予算編成であり、またいろいろな面で、違う施設なのかなというふうに思いました、まず。それでもまだまだ町民の方とすれば、皆さんからとすれば、私にも聞かれるのは、今のそれぞれの施設、観光施設ではないのかというふうに聞かれる方が沢山います、まだ。その面からしても、今の一茶記念館あるいは童話館、ナウマンゾウ博物館、それぞれどのような施設である、あるいは観光施設であるのか、議員になる前は、本当にこれは観光施設だというふうに思っていました。でも議員になってから、予算編成あるいはそれに関しては、教育施設というふうにならわっているということでもありますけれども、あえてお聞きします、それぞれの3施設、どのような立場であるのか、お聞きします。産業観光課長、お願いいたします。

●議長（小林幸雄） 指名ですが、良いですか。はい。小林産業観光課長。

■産業観光課長（小林義之） 先ほど町長からも話がありましたように、博物館法に基づくというような形で運営はされておりますけれども、観光地にありまして、ナウマンゾウは発掘の地・野尻湖、一茶生誕の地である柏原、いわさきちひろ、松谷みよ子ら童話作家が別荘を持った黒姫と、それぞれゆかりがあり、信濃町の観光地である場所に施設が立地しているところから観光客もたくさん入館していただいておりますので、観光施設という側面も持っているものと感じております。

●議長（小林幸雄） 石川議員。

◆1 番（石川広之） はい。産業観光課長から、一面は観光施設であるというふうにお答えいただきました。また、予算的には教育施設ということで、教育施設の立場から答えをお願いいたします。教育次長、または教育長お願いいたします。

●議長（小林幸雄） 佐藤教育次長。

■教育次長（佐藤巳希夫） はい。先ほど町長の方からもありましたとおり、博物館法にのっとった、また準じたというような施設でございますので、文化施設それから社会教育施設という位置づけになるかとは思いますが。

また、先ほど小林産業観光課長の方からありましたとおり、観光地で、ナウマンゾウ発掘の地・野尻湖、一茶生誕の地ですとか、それから童話館につきましては、いわさきちひろ、松谷みよ子さんら童話作家の別荘を持った黒姫、それぞれゆかりの地でございますので、立地等も考えまして観光施設という側面も合わせ持っているというふうにご覧させていただきます。以上です。

●議長（小林幸雄） 石川議員。

◆1 番（石川広之） この件で、教育長、お願いいたします。

●議長（小林幸雄） 竹内教育長。

■教育長（竹内康則） 前段に、町長、課長、次長、それぞれお話をさせていただいたように、両面を備えているというふうに認識をしております。したがって、そういう認識の下、大勢の方々にも是非とも利用いただきたいという願いは持っておりますし、また、前段、社会教育文化施設でもありますので、地元の皆さんに、この3館については大いに活用していただきたいと、常々そういう側面に対応させていただいております。以上です。

●議長（小林幸雄） 石川議員。

◆1 番（石川広之） この3館、今、立ち上げて今日に至っています。それぞれ3館、観光施設あるいは教育施設の、お互いに町外からの体験者あるいは観光者ということになった時に、それぞれの施設、この目的外使用ということは無いでしょうか。目的外使用です。

●議長（小林幸雄） 佐藤教育次長。

## 平成 28 年第 412 回信濃町議会定例会 12 月会議 会議録(3 日目)

■教育次長（佐藤巳希夫） 目的外使用ということは無いというふうに考えております。以上です。

●議長（小林幸雄） 石川議員。

◆1 番（石川広之） それでは、この3館、また教育の立場、あるいはまた観光の立場、お互いに予算の編成あるいはまた所管が違ったり、いろいろするのですが、是非信濃町のひとつの観光施設として役立てていただいて、体験者あるいは観光者をより一層集客できればと思いますので、是非その辺はお互いの課を通じて、縦割りではなく横のつながりを密にして、より一層の利用拡大を図っていただきたいと思います。はい。

続きまして、野尻湖など、「望んでもできないような湖」と、他町村から見ると本当に恵まれた観光施設ではないでしょうか。山々、スキー場、川、田畑など、恵まれた中から本当に大自然に恵まれて、それぞれ自然の中に、普段こういうふうに居るのではなく、また周りから見てくれる人がいることも考えていますか。ということで、町創生事業の中で、ひと、まち、しごとの中に、町民以外の皆さんからも町のことをネットで発信できるように、ということで「しなの一と」がありましたが、今どのように活用されていますか。また、そのようなことで、町、信濃町の他地域の皆さんから信濃町をより一層発信できているかどうか、お伺いいたします。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） 議員にもアドバイザーとして加わっていただきました、信濃町みらい創生会議におきまして、「しなの一とプロジェクト」ということで提案をいただいております。この内容でございますけれども、町の出身者、また学生さんたちなどが、まず写真を投稿できるような仕組みを作りまして、その中で良い写真がありましたらそれを写真集のような形で発行できないかというような形で御提案をいただいた内容でございます。

町のホームページでございますが、この10月からリニューアルをいたしました。その中で今後、私どもの方で考えておりますのが、その中に写真を投稿していただけるような機能を備えていきたいということで考えております。インバウンドの中で産業観光課長からも申し上げましたが、インスタグラムという、商品名を申し上げて大変恐縮なのですが、写真を投稿できるようなサービスがございます。その写真を投稿していただいた際に紐付けをしまして、システム上でございますが、そのホームページの中にそれが表示できるような形で、投稿していただいた写真が、信濃町の風景というのが中心になるかと思っておりますけれども、ご覧いただけるようなシステムを、今後整備してまいりたいと考えております。

そういう中で、いい写真、画像ですね、そういうものがあるようでしたら、また将来的にはパンフレットに使ったり、そういうような形で活用できないかどうかを今、検討しまして、来年度予算にシステムを付け加える予算を要求してまいりたいということで、総務課で検討しております。

●議長（小林幸雄） 石川議員。

◆1 番（石川広之） はい。予算立てしながら検討ということですが、これは本当に、私たち本当にこの自然の中に居て、いつも自然の中に居るから周りがよく見えないのですが、市町村あるいは都会のほうから来られた方にしてみれば、本当に先ほども言ったように、空気は澄み、空は綺麗だしということになると、本当に何と言うか、体験として私たちが普段見ている感覚というのがまるっきり違うものがあります。

そんな中で、体験、そういうものの体験した、直接、何と言うか、自分たちが思うところを発信できる場として、信濃町も今考えているようですから、しっかりとこれも全国に発信して、信濃町を自分たちが良い所だと言える、周りの人たち、あるいは来てくれた人、宿泊してくれた人、先ほど言ったように、3館の体験をして、それを良しとして、良い所だというふうに発信してくれる、遠くから、例えば東京あるいは名古屋、大阪というふうな、そういう大都市から来てくれる方が発信してくれるのが、最高に信濃町をPRでき、また宣伝できるひとつのパンフレットではないかと思います。私たち、これでまた来年、町もパンフレットの製作も考えているようですけれども、それにしても自前ですよ。やはり周りの人たちが作る、こういうネットで、あるいは積み重ねというのは、次から次へと更新されたり、四季折々のものが掲載されたり、またそれを全国に発信する、またそれを見て、信濃町がこういうところか、というふうに来ていただければというふうに思うので、これはもう本当に、考えています、検討していますではなくて、すぐ実行して是非是非、何というか、遅れることなく取り組んでいただきたいと思います。

はい、それでは、小林一茶が、リリーフランキーさんが一茶役で映画化されます。映画化に当たり、町への要請がありましたか。町で取り組んだものは何でしょうか。お聞きします。

●議長（小林幸雄） 小林産業観光課長。

■産業観光課長（小林義之） 映画「一茶」についてでございますが、町には昨年10月に、製作に関する要望等がプロデューサーからありました。映画製作に対する助成ですとか、各種小道具の手配、宿泊先の手配、ロケーション箇所の選定等々の要望が寄せられ、昨年の冬よりロケ班の皆さんに町内の宿泊をいただき、町内数箇所のロケーションの撮影、本年度からは大久保の池や一茶旧宅で、出演される方々の撮影のお手伝いをさせていただいたところでございます。

●議長（小林幸雄） 石川議員。

◆1 番（石川広之） 町は一応、昨年の10月に製作プロデューサーから話があって、それぞれ取り組んだということですが、信濃町の、町で、信濃町振興局で、それぞれの事業の中に一つ、フィルムコミッションですか、ありました。では振興局の中では、



## 平成 28 年第 412 回信濃町議会定例会 12 月会議 会議録(3 日目)

これせつかくこういう大きな題名を付けて働いているのですが、どのような働き、動きがあったかお伺いします。

●議長（小林幸雄） 小林産業観光課長。

■産業観光課長（小林義之） 振興局にはフィルムコミッションの関係でお願いをしているところでありまして、一茶の関係につきましても、スタッフのロケの時にスタッフを見つけてもらうとか、そういうようなお手伝いをさせてもらったり、県のフィルムコミッションの協会にも加入をしております、一茶とは関係はないのですが、テレビのドラマ化されたもの、野尻湖を中心に今回やられましたけれども、そういうものについてもお手伝いをさせていただいているところでございます。

●議長（小林幸雄） 石川議員。

◆1 番（石川広之） 町、振興局、また産業観光課としては、フィルムコミッションという世界であったり、その映画の製作に当たっての協力となると、同じ窓口で同じような方向でいるのかなというふうに伺えたのですが、それぞれ振興局にもそういう目的があるのであれば、もう少し、こういう、一茶という映画化される中で、振興局の位置づけをしていただいて、活動を、仕事をしていただければと思います。

また、飯山市ではこの製作に当たり、体育館を利用し、江戸時代の町並みを体育館の中に作り、撮影が行われたというふうに、まあ、います。このように飯山市は取り組んだのですが、町とすれば一茶の生まれた所、あるいはそれぞれゆかりの深い所として、今お答えいただいたぐらいの話しかできなかったのか、ちょっと寂しい思いをしますが、もう一度お伺いします。

●議長（小林幸雄） 小林産業観光課長。

■産業観光課長（小林義之） 当初の要望におきましては、体育館にセットを作ってやりたいというような要望がなかったものでございます。多分主演される方々が新幹線を利用する中で、そういうような利便性も考える中で飯山市というものを選ばれたというふうに聞いております。

●議長（小林幸雄） 石川議員。

◆1 番（石川広之） はい。なかなか、映画製作の中、経験もない中で、どういう施設があつてどういうものが提供できるかというのは大変積み重ねの中でののだと思います。東京都あるいはこの近くだと小布施あたりは、かなりそういう映画化に関しての地域を利用してくださいというような話は十分聞いてくる中ですがけれども、信濃町もせつかく良い機会をもった以上はということで、これからもいろいろな話があると思いますけれども、是非その辺は遅れることなく、他に負けることなく、利用していただ

ればと思いますので、よろしくお願いいたします。

それと今、一茶ということで、信濃町は一茶のふるさとです。一般的に偉人というか、その人たちは、絵を残した、何々の戦国時代では戦い、または将軍であったり、なかなかその、経験することはないのですが、この一茶ということになると、俳句を通じて詠むことで、一茶につながるが大変多いと思います。小学校、中学校で先生より俳句を習い、「一茶まつり」などへの参加がありますが、なかなか就学が終わると俳句への関わりが遠くなり、俳句に関する人口が、人口比が、成年になると本当に低い状態です。またあの、今、俳句に関わっている人の主が、高齢化されて年配者になっているのが現状ではないかというふうに、私も俳句をやっている人が近くにいるもので、よくお聞きしたので、なかなか厳しいことですねと、あまり多くは語らなかつたけれども。

そのように小中学校で俳句に関わることを、俳句を一応習う、教わる、それぞれ俳句を詠んでみる、農業よりもずっと、経験は若い時にできるのだということを考えると、これかも俳句に関わる人口を増やさなければ、あるいはそれを伸ばしていかなければならないと思うのですが、そのような対応、あるいは町が取れているのか、お伺いします。教育長お願いします。

●議長（小林幸雄） 竹内教育長。

■教育長（竹内康則） 議員さんの方から、学校現場で俳句に対する学習をされて、俳句人口を増やす努力、町としてやっているのかと、こういう御質問の趣旨だというふうに思います。

今、小中学校では、ふるさと学習という位置づけの中で、俳句をテーマにした学習を継続しております。1年生から9年生まで全児童生徒が1年の間に詠んだ、これが私の作品ということで、1人1句、3月に俳句誌としてまとめて、3年目ぐらいになるうかと思えます、統合以来。

そういう取組を学校では行うと同時に、放課後の子どもたちの居場所ということで、交流施設を借りまして、放課後こども教室をやっておるのですが、この約1時間の間に、学芸員が指導をして子どもたちに俳句の楽しさ等も味わっていただく、そういう場面もございます。

また、一茶忌あるいは春の小中学生俳句大会、それらにも若い方々へ投句を呼びかけておりまして、とりわけ11月19日の一茶の命日に行われおります「一茶忌」では、従来一般の部門だけでありましたけれども、新たに高校生と大学生の部門というものをセットいたしまして、その中の特選句等にも選んでいくように、若い世代への働きかけも合わせて強めていると。本年度は、信濃小中学校出身の、現在の北部高校の高校生が審査員の皆さんに推挙されて、特選の句、全国1位ということで、表彰をされました。そういう意味で、義務教育の過程、さらには高校・大学と、若い世代にもこの俳句の魅力を大いに広めていく必要があるし、そうした取組がやはり、この一茶生誕の地・信濃町というものを広める、合わせて観光客あるいは俳人、俳句を愛好する皆さんに訪れていただける里になるのではないかなと、こんな認識をしているところであります。

またこれは明日、明後日の話ではないのですが、平成30年に全国の高等学校総合文化

祭というのが、当番県として長野県で予定されております。俗に言う「総文祭」というのですが、その「総文祭」の中の文芸部門の文学散策コースということで、軽井沢から信濃町の一茶、さらには姨捨と、こういうコースを散策するコースとして今選定をされて、先般も再来年のことでまだ先の話なのですが、諸準備、担当の先生方と共々取り掛かり始めています。これも若い世代へのPR、魅力発信と言うには、全国的な大会ですので、通用するものがあるのかなというふうに思っております。

もう一つ御紹介させていただきますと、俳句学を研究されております大学の先生方の、俗に言う俳句学会というのがあるのですが、その全国年次総会を、是非この一茶記念館を中心にした信濃町で執り行いたいと、これはいつも御指導いただいております玉城先生の方からお話がございます、これについても相当な準備期間をかけての大会なわけでありますので、例年は大きな都市、とりわけ俳人と言われる正岡子規の松山市、芭蕉の大垣市等々大きな市で例年行われている大会のようでありますけれども、これも30年頃、是非一茶のふるさとでやりたいと、こういう申し入れもございまして、そのためにはその諸準備にこれから取り掛かる予定でもございます。

さらにもう一点、この俳句を広げるという視点で、実は芭蕉の生誕の地、三重の伊賀市なのですが、伊賀市が中心的な存在になりまして、この俳句を、ユネスコの世界遺産登録に向けて、今動き出しつつあります。来年29年には金子兜太さん等を中心に、発起人という形で座っていただいて、推進に向けての全国協議会が立ち上がる、こういう段取りになっております。当然、日本だけの俳句ではありませんので、世界中の俳句ファン等から支持がなければ世界遺産登録にはとてもつながりませんので、息の長い取組になろうかというふうに思いますけれども、この俳句を国内外に広める、さらに私どもも、そういった新しい気持ちを持って、希望の光をもって一茶の顕彰に努めていく、俳句を愛好する輪を広げる、そういう意味では非常に明るい展望の一つではないかなという、こんな考え方でおりますので、議員さんにおかれまして、そんな意味での御理解と御協力をこれからもお願いをしたいと思います。以上です。

●議長（小林幸雄） 石川議員。

◆1番（石川広之） はい。教育長の方から、大変これから何年間にかけてのいろいろなイベントというか、開催あるいはそれぞれの組織の中で動きがあるようではございますけれども、是非信濃町をまた一層のPRできるような場を持っていただいて、活動していただければと思います。またこの中で、それぞれの活動の中で見ると、一茶は信濃町というならば、と、俳句に関わる人がより一層多くなることを望むよりしょうがない、望むことを最大のひとつの事業としていただければと思います。

これはもう、信濃町柏原が一茶の生まれた所であって、また終焉の地です。またそれぞれ俳句から、一茶を通じ、信濃町を発信できればと思います。その中で言われた、軽井沢あるいは東御町ですか東御市、あるいはその辺で一茶に関わるそれぞれの、ということでありまして、今、ネット社会の時代です。いろいろな発信、フィルム、あるいは写真でも何でも発信ができる時代です。一茶記念館という一つ固定した所があれば、それは一つの記念館としていろいろなものが見られるのかなと思いますけれども、



信濃町と、一茶とすれば決して柏原の地において、ずっとそこで過ごしたわけではないです。これ一茶、柏原宿、柏原すぐそこから江戸に出るには、昔の江戸時代で5日から7日で江戸へ行ったという話です。とても何日も泊まるような費用はないから、急いで昔は江戸へ出たという話も聞いております。そんな中で大きな面で言うと、記念館という一つの拠点はあるかもしれないけれど、この北国街道、あるいはそれぞれ今の関東へ入ってからの街道筋、それぞれ昔の一茶の、何回か一茶の歩いた道筋を辿る中でも、この地域の皆さんにその地域の道筋、街道筋を発信してもらって、一茶の江戸へ行ったような、一茶江戸へ行く、ような感じで、町としても大きな予算立てでなくて、皆さんにお願いして、どんどんと信濃町からネットで発信してもらって、江戸へ行ってもらえればいいので、わずかに何日もかからないで行かれると思うので、足腰痛くならないで、年配者でなくても江戸へ行けるような気がするので、その辺をよくまた考えていただいて、是非大きな面で、一茶の活躍した所は決してこばかりではなくて、日本全国だということを、また発信していただければ、俳句人口、また信濃町一茶のふるさとというような、胸を張って語れるものではないかと思っておりますので、またよろしく願いいたします。

また、一茶記念館へ来館される方、信濃町の玄関口である黒姫駅を利用します。見ていると本当に、来館者も本当に年配者です。なかなか大変な面もあります。先ほども黒姫駅の1番線利用ということで、私も再三お願いした中にいます。実現は、というふうに、いつも言われるのですが、実現はこっちの努力だと思っておりますので、事あるごとに、しなの鉄道との話し合いの中で1番線をうたっていたいただければ、副町長、よろしく願いいたします。

一茶のことにに関して、町長、ひとつ町長の所見をお願いいたします。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） はい。冒頭の答弁でも申し上げたのですが、やはりこの、亡くなってから今年119回忌ということですね。そんな中で大変全国的にも、あるいはまた今教育長から話がありましたとおり、フランスだとかアメリカだとか、俳句文化も大変広まってきたというふうに、私自身もそんなふうに思っております。そういう面で、確かに一茶さんに関しては、ご存じのように当然流山市とも、双樹記念館がある流山市とも一茶の振興を踏まえての姉妹提携でありましたし、また東京の足立区の炎天寺という所でも俳句会をやっておりまして、あそこも1万句以上あってやっておられる…あ、25万句、そんなにあるのですか、そうですか、それはまた改めて認識を新たにしなければいけないのですが、場所的にイベントテントを張ってそこでやっていたというのを、当時2、3回伺って、なるほどこういうやり方もあるのかなというふうに思いました。いずれにしても、この年数を重ねるごとに一茶さんのいわゆる活動の重さというのが、より、価値という言い方は大変失礼ですが、上がってきているなというふうに思うわけです。

そういう中で、一方、その俳句体験者と言いますか経験者というのは、ひとつ伸び悩んできているということで、いろいろな意味で、私は地元の偉人である、まさに偉人である一茶を顕彰していくというのを、今、教育長も言われたように、どんな形を取って

## 平成 28 年第 412 回信濃町議会定例会 12 月会議 会議録(3 日目)

いくか、今までのものプラス、更に考えられるような、今 2、3 年後の行動、イベントと言いますか、も予定されているというようなこともあります。その一過性になるのではなくて本当に徐々に、経済指標ではないですが、上に上がっていくというような、そういう取組を引き続き、地道な部分も含めてやっていかなければいけないのではないかなというふうに思っております。

そんなことでは、一茶顕彰というのは、非常に大事な信濃町の、一茶さんに失礼ですが、観光という分野からしても、大変重要な位置づけに今なっていると思っております。以上です。

●議長（小林幸雄） 石川議員。

◆1 番（石川広之） 炎天寺俳句大会、25 万句くらいあるようです。町の俳句の選者をやっている仁科さんも、3 日、4 日くらい泊り込みで、5 人くらいの選者で全国俳句大会をやっているようです。それぞれ大変高齢になって、大変難儀だという話も聞いているのですが、そのような面からも、俳句人口を増やして、また俳句に関わる人を増やして、また信濃町の選者あるいは俳句を見てくれる人というのは大変必要になってくるのだと思います。是非また俳句を通じ、信濃町のより良いところを発信できればと思います。またそれぞれの、町長をはじめ、教育長をはじめ、また是非いろいろな面で発信していただければと思います。

以上で、質問を終わります。

●議長（小林幸雄） 以上で、石川広之議員の一般質問を終わります。

本日の日程は、全て終了いたしました。本日はこれで散会といたします。御苦労さまでした。

(平成 28 年 12 月 8 日 午後 3 時 57 分)